

EMC 通信

第 2 号
2013 年度

会員増強事業主任 相磯 優子（沼津クラブ）

1. ヤングメンバー区費補助制度がスタートします。
前年度承認されました、本制度は 2014 年 1 月（後期半年報）より施行されます。
理事通信とともに施行規則を送付させていただきます。
※ご不明な点等ありました場合は、お手数ですが会員増強事業主任の相磯まで問合せ願います。
2. 12 月は EMC/MC 強調月間です。
『インビテーション・キャンペーン』絶賛開催中です。
各クラブ会長様へチラシを配布させていただきましたが、活発な会員増強へのお取り組みを
お願い申し上げます。
3. 新クラブ設立への道
EMC/E 「クラブ拡張」は最優先課題です。新クラブ設立に向けて、ご尽力を頂いております
皆様をご紹介致します。東京江東クラブと東京ひがしクラブ、両クラブからなる
「しのめワイズ設立準備委員会」と「宮古にワイズを！」で立ち上がった、もりおかクラブです。
B 面にご紹介させていただきましたのでご一読ください。

9 月の新入会者

森田 恒一様（伊東） 金 廣照様（横浜）
井上 恵子様（仙台広瀬川） 及川 浩美様（仙台広瀬川）

10 月の新入会者

石田 元志様（富士五湖） 渡邊 大輔様（東京武蔵野多摩）
稲葉 晃司様（富士宮） 野村 郁雄様（横浜）再入会

11 月の新入会者

佐藤 五郎様（金沢八景） 鍋谷 憲利様（金沢八景）

ご入会おめでとうございます。会員増強へのご尽力、心より感謝申し上げます。

EMC 通信 1 号でご紹介できなかった入会者の方々

濱口 隆之様（東京セントラル） 比奈地 康晴様（東京）
北村 文雄様（厚木）再入会

ご紹介が遅くなり大変申し訳ございません。

EMC メーター

2013 年 11 月 30 日現在	
入会者	退会者
13 名	9 名
合計 989 名	

新クラブ設立への道

新クラブ設立を目指して
関東東部部長 利根川恵子

東日本区のみなさまにはもう既にご承知のことと存じますが、東京江東クラブ、東京ひがしクラブが中心となって、新クラブ設立準備実行委員会が設置され、関東東部に新しいクラブを設立しようという動きがございます。すでに、説明会、準備委員会などが行われ、クラブ名やロゴまで考えて準備を進めております。しかし、新クラブ設立の条件である、入会者15名のハードルがあと一歩のところまで越えられません。何とか今の機運が続くうちに、新クラブの誕生を実現させたいと部をあげて願っております。どうかみなさま、入会者のご紹介など、新クラブ設立に向けてさらなる御協力を心からお願い申し上げます。

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター地域交流会開催の報告 もりおかワイズメンズクラブ 会長 山口 貴伸

「宮古にワイズを作ろう」という合言葉を胸に秘め、10月19日（土）18時30分から岩手県宮古市内の居酒屋「無礼講」において、もりおかクラブの10月の移動例会を開催しました。当日の参加者は31名、宮古ボランティアセンター職員が2名、もりおかクラブ8名、仙台青葉城クラブから3名、神戸ポートクラブから1名、地元宮古からは17名、ヨットや河川プロジェクト関連NPOの方、お肉屋さん、酒屋さん、産婦人科のお医者さん、校長先生、市場の方、電気屋さん、美容室、社会福祉協議会勤務の方、仮設住宅の自治会長さんなど多彩な顔ぶれの方が集ってくださり、交流を持つことができました。当初、YMCAは宗教団体ではないかということで警戒されていたようでした。「県外ナンバーの車がまた止まっていた。」「あいさつして声をかけてくるけど・・・」「何か建物が建ったようだ。」「気を付けてあまり寄り付かないようにしましょう。・・・」ボランティアセンタースタッフは、震災直後から朝7時から毎朝、通学路に立ってあいさつ運動を続けています。あいさつした延べ人数は宮古市民の人口6万に匹敵します。宮古市民はその姿を見ていました。時間がたつにつれて、スタッフへの見方が変わってきました。「そんな見方をしていたこと反省した。」「今日の会に参加して謎が解けた、晴れた気持ちになった」会の中でそんな言葉を聞く事ができました。また、宮古ボランティアセンターでは子供たちのカヤック、シュノーケル、ゴムボートなどマリンスポーツの体験事業をしています。日ごろお世話になっているいわてマリフィールドという宮古高校ヨット部OB関係のNPOを通して間接的に県立宮古高校のヨット部の支援につながる事ができました。宮古高校ヨット部はヨットが流され、震災の年は9月まで活動ができませんでした。廃部の声も上がりました。「いろいろな方の支援を受けて、部活動を継続できた。今年はインター杯で優勝と3位を取ることができた。これは地元にとって大きなことだ。宮古の子供たちに希望を与えることができた。」そんな声もありました。「こういうボランティア活動ならぜひやってほしい」と好意的な反応でした。会の中では、東日本区から被災地支援絵葉書の販売金からもりおかクラブへの10万円の贈呈式も行い、そのまま盛岡YMCAへ献金させていただきました。阪神大震災の被災地神戸からは、東日本区大会に引き続き大野勉さんが参加してくださいました。ギターと語りで当時の避難所生活で作った歌に一同は聴き入り、同じ被災地として思いを一つにすることができました。ワイズやYMCAのつながりを感じることができたひと時でした。震災から2年と7か月が過ぎ、被災地からボランティアはほとんど引き上げてしまいました。宮古ボランティアセンターにおいてもウィークデイにおいては、ほとんどボランティアは来なくなりました。一方、被災地においてはかつての商店街や住宅地に雑草が生い茂りかつてここに町があったとはとても思えないような状況です。地盤が1メートル近く沈下して安心して住むことができず、復興の計画も進みません。残った建物の土台と雑草の中にまばらに修理した建物が建っています。被災地への支援はこれからが正念場です。私たちはいわば「本物は後から来る」ような被災地との関係づくりを目指していきます。「次回は2月頃」再会を約束して楽しく会は終了いたしました。

どうか東日本区の皆様の温かいご支援・ご協力をお願い致します。